

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372300537		
法人名	株式会社 雅		
事業所名	グループホーム青い鳥		
所在地	備前市吉永町南方652-1		
自己評価作成日	平成27年7月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成27年8月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を感じて頂けるよう飾りつけを行うようにしています。
 散歩や入浴を毎日出来るよう、天候や体調をみて実施しています。
 ホームの菜園で野菜を作り、利用者様に収穫していただき料理に活用しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来「家庭の延長」を理念に掲げ介護保険の改正と共に地域密着型ホームとしての運営に取り組み、市町村との連携を図りながら日々の生活支援に努めています。多くの体験から学んだ事を実践に活かしながら利用者・家族との信頼関係を大切にしたいホームづくりを心掛けサービスの向上をめざし邁進しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭の延長として家事全般の仕事や、長年続けてこられている趣味や得意なことを続けて頂けるように実践しています。	職員間に理念が共有できる様、理念を掘り下げ職員全体で利用者の趣味や得意なことを具体的に把握し、支援できる様意見の統一を図っています。	理念はサービスの質の向上の動機づけとなるものなので、地域密着型サービスの意義を踏まえ、地域や利用者のニーズ、事業所の状況の変化に添った理念を作成されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われている祭りや行事に参加したり地域のボランティアさんによる演奏会も行っています。	自治会主催の清掃作業に参加するなど、コミュニケーションを大切にしながら地域とのつながりに努めています。またオカリナの演奏会や近くにある喫茶店やディサービスに出かけて交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域にある施設と交流を交わし情報交換を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い地域の方や利用者家族の方のご意見を伺いサービス向上に努めています。	2～3か月に1回運営推進会議を実施。家族・民生委員・町内会・地域包括・市福祉課などそれぞれの立場の方と意見を交わし、サービスの向上に努めています。	運営推進会議の実施を日常の煩雑に追われても、定例化できるように一年行事に組み入れ、参加者にも前もって日程を連絡できる様、更に内容の充実に努められることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に消防、公民館、教職員などの方々に参加してもらい情報交換をしています。	市町村を月に1回は訊ね、現状報告をしながら協力関係を築くよう心掛けています。また、介護保険法が改正になるたびに認識に間違いがないか確認しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフで話し合い、正しく理解し、解決していきやむを得ない場合は家族様に了承していただき、同意書を作成しています。	言葉による拘束には特に注意しています。入居した日の浅い利用者が不穏になった時、安全の為一時的に施錠することもあります(建物の前に用水路がある)、日常は施錠を含め身体拘束しないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止の為、スタッフ、管理者と話し合い、良い解決方法が出来るよう努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・ケアマネージャーが対応し、スタッフは支持のもと対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・ケアマネージャーがご家族に十分な説明を行い理解・納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や運営推進委員会などで意見や要望を聞き、運営に反映させています。	生活習慣からの要望(例:ビールが飲みたい)などがあった時、職員間で話し合い出来る限り要望に添える様本人を大切にしながら共同生活の環境に配慮し、意見や要望を反映した支援に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやミーティングなどで意見を出し合い、反映させています。	月1回のミーティングを実施し、職員の気づき・要望・アイデアなど意見交換の場になっている。また、そこで出た意見をリーダー会議において代表者に聞いてもらい意見の反映に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に何度か面談があり、管理者や職員は意見や思いを伝えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎回ミーティングで勉強会が行われています。代表者が研修の情報を提供しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホームとの意見交換や勉強会などを行いサービスの質を向上させるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前・入所時に家族や本人と面接し、不安や要望を確認し、安心できるサービスを提供しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前・入所時と不安や要望に耳を傾け、信頼できる関係づくりをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族が必要としている支援を見極め支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクレーションや散歩、洗濯などを共にし、関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りや来所時にご本人を交えて話しをさせて頂き、支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族や友人、知人が面会に来られた時はお茶を飲みながら楽しく過ごせるよう努めています。	馴染みの方を大切にされている状況が窺え、テレビやスポーツ観戦をしながら、地域の様子や出身者が話題に出ると、話が弾むので一緒に観るようになっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが入り、関わり合いを持って楽しく過ごせるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も移られた病院や施設に面会に行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	申し送りの時やミーティングなどで意見を出し合い、良いケアを出来るよう努めています。	日々接している中で言葉にできないことを感じ取るなど気づきを大切に職員間で共有して支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人に聞き、サービスに取り入れています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状にあったケアプランをもとに1日1日を過ごして頂いています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー・担当者・スタッフとモニタリングし、現状に適した介護計画を作成しています。	往診に来られる医師や看護師とも連携をとり、小さな変化を見逃さないよう確認をしながら現状に即した介護計画に努めている様子が窺えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し気づきや実践結果を申し送りしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と相談し、その時々生まれるニーズに対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物、食事やコーヒーを飲みに行ったりと楽しめるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の往診があります。家族やスタッフが受診に付き添うこともあります。	ご家族の協力のもと、かかりつけ医の受診を継続できるよう支援しています。また専門医(歯科)の受診支援もしており、適切な医療を受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけの病院に電話をしたり相談に行ったりしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時、ご家族に代わりスタッフが毎日洗濯物を取りに行き、ご本人の状態を確認してきています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	容態が変化するたびにご家族に連絡を取り、説明しながら方針を決め、支援できるように努めています。	ホームとして看取りを提唱していますが、地域の事情等含め、医療との連携が難しく現状は職員間で出来る支援にとどまっています。	これからも重度化や終末期に向けた取り組みの継続と、医療機関との連携に努めていかれる事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のバイタルチェック後、早急な対応ができるように救急車の支援要請マニュアルを作成しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連絡を取り、年2回以上の避難訓練を行っています。	消防署と連携して避難経路の確認、利用者も一緒に避難訓練に参加しています。水害は過去に地域が見舞われたことがあるので地域の協力が得られるよう努めています。	地震・豪雨など天災害に備えた訓練も必要と思われ、地域との協力体制のもとそれらのマニュアルを作成され、訓練に活かしていられることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	穏やかな声掛けや見守りをし、ご利用者に不快感を感じさせない対応をしています。	馴染みの関係が、なれ合いの関係にならないよう方言を交えながら又、上から目線にならないよう配慮するなどプライバシーを損ねない支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に会話をし、希望を言える関係づくりをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者個々のペースに合わせて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣する衣服を選んで頂いたり、散髪時には希望の髪型を伝えたりと支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下処理や味付けを一緒にしたり、下膳やお膳ふきをして頂いたりしています。	季節の野菜を菜園で作り、それを使った献立を利用者と考える職員が当番制で作っています。栄養のバランスについては保健所の管理栄養士に相談しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食べる量や食べやすくするなど工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしています。夜間は義歯を洗浄液に浸けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄時間を把握し、声掛けをしています。トイレのサインを見逃さず、誘導もしています。	日中は排泄表をもとにまた、サインを見逃さないようにしてトイレでの排泄を促し、失敗やおむつの使用を減らし、個々の自立支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や歩行、体操などを行い小まめな水分補給をしています。それでも排便がない場合は便秘薬を服用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜・祝日以外は入浴を行っています。	異変があったとき病院に対応してもらえるよう日曜・祝日以外入浴する様にしています。入浴拒否をされる方は辛抱強く、本人の意思を尊重し、人や時間を替え気持ちよく入浴してもらえる様支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	曜日を決め、パジャマや寝具を洗濯したり、布団干しをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認し症状の変化を日々の記録に記入しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者が求めているレクリエーションを用意し、お出ししています。月2回にノンアルコールを飲まれているご利用者もいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調が良ければ散歩や野菜の収穫や買い物に出かけています。	年間行事で海や山などに出かけ、戸外に出かけられるよう支援に努めています。また、たまたまその時体調の悪い方は日を改めて出かけることができる様支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はお預かりしていますが、希望している物や必要なものをスタッフが代理で購入しています。外出の際は缶コーヒーを買うこともあります。		
		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いをだして頂いています。電話はスタッフが対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下には季節を感じられるように飾りつけをしています。掲示板には、イベントや外出した時の写真を掲載しています。	共用空間の全てに清掃が行き届き、常に清潔感と季節感を大切にした居場所作りに取り組んでいる様子が窺えました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スタッフが入り談話できるよう配慮したり席の位置を工夫したりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が愛用していた座椅子を置いたりカレンダーを置いたり家族写真を飾ったりしています。	居室は清掃が行き届き、入居者それぞれが居心地よく過ごせるよう取り組んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルやソファの位置を工夫しています。		